3月

【収蔵品紹介】

蘭欧仙史著『草木図解盆栽培養全書』

（魁眞書楼、明治29年）

蘭欧仙史（井口松之助）著『草木図解盆栽培養全書』（以下、井口本）は明治29年（1896）7月に発行されました。本書が発行される2年前の明治27年には、令和3年12月号で資料紹介をした岡本半渓著・井口松之助発行『草花木竹盆栽培養法　全』（以下、岡本本）が発行されています。井口本は井口松之助が著者兼発行人で、岡本半渓は校閲者となっています。一見、井口本は岡本本の増補版のように見えますが、内容を紐解くと、それぞれの書籍の違いが見て取れます。今回は、岡本本との違いにも注目しつつ、井口本について紹介します。

なお、井口本は、井口が原稿を書き上げた後に、岡本へ校閲の依頼があって、発行に至ったことが、岡本が記した序文に書かれています。ただ、井口がどのような目的で執筆したのかは記されていません。井口が何を企図して本書を執筆したのか、併せて探っていきます。

『草木図解盆栽培養全書』表紙

両書の目次（表）を比べると、土、肥料などの基本事項は共通しています。ただし、本文を見ると、両者の考え方に違いが見られます。

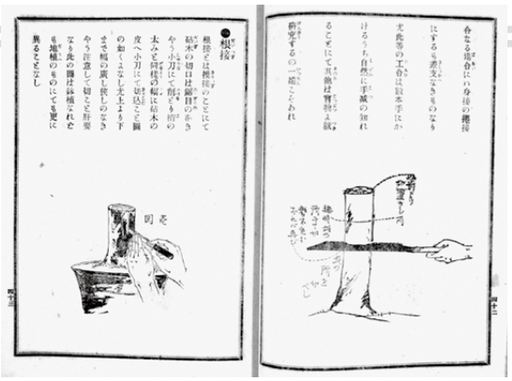
例えば、土について、岡本は産出地の環境に近い状態にすることを主張しています（12月号参照）。一方、井口は「凡（すべて）萬草萬木ともに其生ずる所其草木に適する地質と温度によるものと知るべきなり」としながらも、「去ながら山野に生するものと雖も盆裡に栽（うえ）、室内に入、腐敗したる空気に混ずる時は、山野にありて新鮮の空気に枝葉を洗いし昔と変り、（中略）元生ずる所の土を用ゆるよりも盆裏に栽、又寸余の木庭に植て養安き土を撰み用ゆるを草木培養法の本分と知るべし」として、育てやすさに重点を置いています。この事から、井口本は単なる岡本本の増補版ではなく、井口の観点で執筆したことがわかります。

また、同じような内容でも、井口本は手順を示す挿絵や、作業途中の様子を切り取った図が豊富に挿入されています。岡本本を含め、本書以前に刊行された書籍は、盆栽の絵や温室の図など物そのものを示しているだけで、作業工程等を視覚的に示した盆栽の書籍は、管見の限りでは、本書が初めてであり、井口が新しいことを試みていることが窺えます。

次に、両書の特徴的な部分から、各書籍の性格を見ていきます。

岡本本では、珍しい草木を採取するための山林採取や奇品名称の一覧が掲載され、江戸時代の園芸や「奇品」愛好の影響が強く見られることを12月号で述べました。

井口本では、盆栽の鑑賞法とその培養法や、「花壇物」・「庭草物」・「植木庭物」という趣味園芸に用いる植物の分類についての記述に特徴が見られます。


『草木図解盆栽培養全書』図

鑑賞については、「雅賞」と「俗愛」に分け、前者を「雅味風致を賞し、文房具と共に陳列するもの」、後者を「盆中に植るもの鄙近の如何を問ず只綺麗なるを楽の盆栽なる故、此の部中を見ること宛も縁日の植木屋の如し」としています。そして、「雅賞」と「俗愛」それぞれに適した培養法を樹種ごとに述べています。

松を例に取ると、「雅賞」では、「盆中に栽へ風韻を楽しむ松抔は其元芽生より培養したるものにあらず、深山幽谷に育ちて幾年の雪霜を凌、暴風に枝をしごかれ様々に辛酸をなめて生長したるものなれば（中略）天然の姿を失なはざるように養ふこと肝要なり」と言います。対して、「俗愛」は、「図に顕すもの何れも仕立ものなり。此元来趣を殊にするものにて、眺と葉艶よき処をのみ愛するの盆栽」であると述べています。以上から、「雅賞」は現在の盆栽に通じる概念を念頭にしており、山採りした自然のままの姿を楽しむものと考えられています。一方の「俗愛」は、縁日の植木屋に見られるような鉢植えの流れが念頭にあり、「仕立もの」つまり栽培された盆栽の見た目の良さを楽しむものと読み取れます。

また、趣味園芸の植物の分類では、「花壇物」はすなわち「花もの」（桜草など）、「庭物草花」は「木の根又は垣添・飛石・立石・捨石などに添へて植るもの」（雪割草など）であり、「植木庭物」は「凡て植木と云へば、何れも植木」であり、その中に「盆栽とするあり、盆裏にありて雅賞するあり、俗愛するあり」（山茶花など）と定義しています。井口の考えでは、「植木庭物」の中に盆栽のカテゴリーがあり、更に盆栽の中に鑑賞を基準とした「雅賞」と「俗愛」という分類があるようです。本書のように、趣味園芸における植物の中に盆栽を位置付けている書籍は、管見の限り井口本が最初です。江戸時代以来の園芸全般の中に、趣味性が高い分類として盆栽を位置付けようとする試みが見て取れます。

以上、井口本は岡本本の増補版ではなく、一つには、井口本の書名に「図解」とある通り、以前にはない視覚的な書籍を目指し、もう一つには、位置づけや分類が未確定だった盆栽を趣味園芸の植物の中に定義することを目指したもので、特に「雅賞」と「俗愛」の記述からは、現在の松柏盆栽と雑木盆栽、草物盆栽という分類になる以前の動きが読み取れる好個の資料です。（当館主事　立石見雪）

草花木竹盆栽培養法　目次	草木図解盆栽培養全書　目次
土を撰む事	培養土の事
肥料の事	草木肥料の事
灌水の事	草木仕立方の事
草木盆栽の事	盆栽心得の事
草木移植の事	接木の事
草木仕立方の事	砧木仕立方の事
草木の虫を除く事	梢小対する砧木の事
撫樹の事	木違接の事
壓樹の事	撫木の事
砧木仕立方の事	種蒔の事
種蒔の事	草木の害虫を駆除する事
接木の事	灌水の事
催花の事	窖の事
草木の性質を知る事	温室の事
班葉の事	温度器の事
山林採薬の事	盆栽雅賞の事
草木名称和漢対照の事	盆栽俗愛の事
盆栽として愛する草木の事	鉢の事
世間奇品と称する草木名称の事	花壇物の部
草木培養法追加	庭物草花の部
梅桜奇品名称の事	植木庭物の部
木葉覆輪の事	花形異名の事
牽牛花培養の事	葉形異名の事
菊培養の秘法	牽牛花培養の事
蘭培養の事	菊培養の事
	万年青培養の事